

NPO 法人 日本ウミガメ協議会
Sea Turtle Association of Japan



2021年10月~2022年9月

1. 日本におけるウミガメ関連情報のとりまとめ

1-1 2022年シーズン（2021年10月～2022年9月）の日本の産卵情報の収集

全国の機関・個人よりウミガメ類の上陸・産卵情報をいただいた。アカウミガメは7,727回の上陸、4,108回の産卵が確認された。また、アオウミガメは1,832回の上陸、1,075回の産卵が、タイマイは22回の上陸、19回の産卵が確認された。また、種の特定できなかった上陸回数は76回、産卵回数は33回であった。

1-2 2021年シーズンの漂着死体情報の収集

期間中、ウミガメ協議会事務局に通報を受けた漂着死体は713件であった。内訳はアカウミガメ264個体、アオウミガメ354個体、タイマイ38個体、ヒメウミガメ3個体、オサガメ14個体、交雑種3個体、種不明34個体であった。

1-3 2021年シーズンの標識調査

2021年10月～2022年9月の間に、13の個人・団体・機関に2,580個の標識を配布した。

1-4 第32回日本ウミガメ会議（オンライン大会2021）の開催

2021年12月18日から19日にかけて標記会議をオンラインで開催した。事務局を含め112人の参加があり、2020年に続いているオンライン開催ながら盛会であった。18日には4題、19日には10題の口頭発表があった。午後には、全国のとりまとめ、上陸産卵情報、死亡漂着、混獲状況の報告があった。夜にはオンラインでの懇親会を開催した。

2日間大きなトラブルもなく実施することができた。



1-5 第33回日本ウミガメ会議（やんばる大会）の準備

第33回日本ウミガメ会議やんばる大会の開催に向け国頭村との協議、調整を行った。2022年12月16日から18日の3日間の日程で、対面開催する。

1-6 令和2・3年度 徳島県 自然環境協力員育成（委託）

本事業は、徳島県内のアカウミガメ上陸・産卵調査等に関わる人材育成事業で、平成16年以降継続受託している。県内で募集した協力調査員（約15名）を対象に産卵シーズンに先立ち調査手法や関連情報に関する講習会を実施したうえで、個別の砂浜の調査結果に関して逐次報告を受け、それをとりまとめ、産卵シーズン後にフィードバックする報告会を実施している。本事業年度には、2021年11月21日に報告会を徳島市のエコみらい徳島の会議室で、2022年6月11日に阿南市の富岡公民館で実施した。

1-7 環境省モニタリングサイト1000 ウミガメ調査（委託）

本事業は、国内の様々な生態系に忍び寄り変化をいち早く察知するべく、環境省が多くの調査主体の協力により実施している包括的生態系モニタリング事業で、当会はこのうちウミガメ類の上陸産卵モニタリングと関連情報の調査とりまとめ等を2004年から担当している。2016年度の事業で見直した公募制を柱とする新体制を、1年間の休みを経て、2018年度から再開した。本年度は、38の調査主体に対して、ウミガメの上陸・産卵回数および調査範囲などに関するヒアリングを実施し、とりまとめを行った。また、2018年の再開から2022年度までの5年分のデータのとりまとめ報告書の作成にむけ、各調査主体への写真提供等の協力を依頼し、とりまとめ編集をすすめている。

2 国際的な活動

2-1 米国大気海洋局との協働

アカウミガメ北太平洋個体群の産卵は近年低迷している。産卵後の回帰率が低いことから、危険な海域や脅威の特定は急務である。そこで、同個体群の適切な保全に資するべく、米国大気海洋局と協働で衛星追跡を実施し、多様な回遊生態の解明をはかる。本事業年度においては、和歌山県みなべ町岩代浜に上陸したメスのアカウミガメのメス1個体に、GPS機能付き衛星送信機を装着して、産卵期間中および産卵後の追跡を行った。また、個体群に対する脅威となっている要因の再評価や必要なアプローチおよび今後の展望に関して、適時、オンラインで協議した。

3 個別プロジェクト

3-1 みなべ町千里浜のウミガメ保護調査

2022年6月13日から8月20日まで、みなべ町教育委員会の支援を受けて千里観音境内の調査基地にて、学生調査員およびみなべウミガメ研究班、青年クラブみなべと協働で調査を行った。調査は千里浜における夜間パトロールを実施し、産卵メスの個体識別および産卵巣へ食害対策用の金籠の設置を行い、随時、孵化率調査を実施した。また、この期間を通じて、周辺の砂浜（岩代浜、小目津浜、南部浜）での痕跡調査を昼間に実施した。なお、食害対策および孵化調査については、株式会社ライオン大阪工場のボランティアの皆様の協力を得た。また、今年度は新たな取り組みとして、砂が減少した砂浜の一部に堆砂垣の設置も行った。

調査期間中には、大阪 ECO 海洋動物専門学校および帝京科学大学の臨海実習を受け入れた。



3-2 アースウォッチ・ジャパン種子島のアカウミガメ調査（助成）

本プロジェクトは、アカウミガメの産卵地として屋久島に次ぐ規模の産卵を誇る種子島において、組織的な夜間砂浜踏査に基づく産卵メスの個体識別調査を実施するものである。主な目的は、屋久島や宮崎、みなべなど主要産卵地における回帰率の低さが種子島への産卵地の変更では説明できないことを確認し、間接的に、産卵後のメスの死亡率の高さを示すことにある。地元ターゲットクルーと連携し、三菱重工グループの支援を受けて継続しているが、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のためボランティアの参加は見合せ、研究者6名による8日の調査に留めた。



3-3 アースウォッチ・ジャパン紀州みなべのアカウミガメ調査（助成）

本プロジェクトは、アカウミガメの産卵地として本州最大を誇る和歌山県みなべ町において、千里浜に加えて、周辺の砂浜でも組織的な夜間砂浜踏査に基づく産卵メスの個体識別調査を実施するもので、これにより同一個体が町内の複数の砂浜を一体的に利用していることを示し、シーズン内の1個体あたりの産卵回数など基礎的な産卵生態を明らかにすることを目的としている。また、2019年度以降は、GPSアルゴス送信機を用いて、産卵期間中および産卵後の移動経路の解明にも取り組んでいる。実施にあたっては、みなべウミガメ研究班と連携し、日本郵船グループの支援を受けて継続している。今年度はボランティアの参加者

15名の協力を得て、7月に2泊3日の調査を2回実施した。6月末にGPSアルゴスを2頭の産卵個体に装着し、移動経路を追跡した。



3-4 美波町回帰率向上拠点計画検討協議会への参画

文部科学大臣および国土交通大臣に認定された「美波町回帰率拠点計画」の実施に向けた取り組み、同計画の目標達成状況の検証、日和佐うみがめ博物館カレッタの機能強化事業の実施などに向けてた取り組み等について必要な事項を検討する「美波町回帰率向上拠点計画検討協議会」の構成団体として参画するとともに、博物館リニューアルの全体監修の依頼を受けて、特に本事業年度は館内展示のグラフィックの作成に参画した。

3-5 自然環境下における産卵期アカウミガメの心拍モニタリング

自然環境下で産卵を行うアカウミガメ成体メスの陸上活動における心拍数変化を把握するとともに、産卵に伴う心拍数低下の有無を明らかにすることを目的として、7月前半に、みなべ町千里浜および岩代浜において、心電ロガーによるの装着および回収を行った。本プロジェクトは、東京大学大気海洋研究所・名城大学との共同研究である。

3-6 鹿児島県吹上浜における砂中温度の測定調査（研究補助事業）

小林雅人（横浜商科大学）

昨年度に引き続き、鹿児島大学ウミガメ研究会（山下和輝会長）との共同研究で、鹿児島県吹上浜で3本のデータロガーを用いて砂中温度測定を実施した。ロガーは、2022年5月29日にイノシシと思われる野生動物によって食害にあったアカウミガメ産卵巣の巣穴に、6月4日に設置した。ロガーを設置した深さは10cm深、35cm深、60cm深で、10分間隔で温度を測定した。3本のロガーは9月6日に回収し、温度データを取得することができた。取得データから、35cm深と60cm深で有効積算温度（639.8℃）に達する8月1日（産卵から57日）が脱出予定日と見積もられた。

3-7 令和4年度環境省マリンワーカー事業（屋久島）

大野睦

- 田代海岸におけるウミガメ上陸産卵頭数等調査（令和4年度 環境省マリンワーカー事業）
屋久島東海岸／国立公園地域での調査（夜間調査ならびに足跡調査）
- 屋久島におけるウミガメ保全活動の質の向上に資する講演会（令和4年度 環境省マリンワーカー事業）
ZOOMでの屋久島ウミガメ講座（計4回開催）
- 永田浜における上陸産卵回数等モニタリング調査（令和4年度 環境省マリンワーカー事業）
永田前浜での夜間調査（30日間）
- 永田浜におけるふ化モニタリング調査（令和4年度 環境省マリンワーカー事業）
永田いなか浜、前浜でのふ化調査（30日間）

3-8 永田いなか浜における上陸産卵モニタリング調査業務（屋久島町）

大野睦

永田いなか浜での夜間調査（30日間）を実施

4 情報発信・教育啓発

（※付属施設の活動については、「5」に記載）

4-1 講演活動

- 2022.01.13. 於：泉北環境整備施設組合 第9回環境シンポジウム「ウミガメから学ぶ地域循環共生圏」
- 2022.03.18. 於：アースウォッチトーク オンライン講座
- 2022.05.14. 於：屋久島マリンワーカー事業 第1回オンライン講座
- 2022.05.21. 於：屋久島マリンワーカー事業 第2回オンライン講座
- 2022.06.04. 於：屋久島マリンワーカー事業 第3回オンライン講座
- 2022.06.25. 於：帝京科学大学サルカメ実習
- 2022.09.26. 於：アースウォッチ・ジャパン 三菱重工オンライン報告会
- 2022.09.29. 於：アースウォッチ・ジャパン 日本郵船オンライン報告会

4-2 普及啓発

徳島県アカウミガメ上陸産卵調査報告会を開催 2021/11/21 徳島
 徳島県アカウミガメ上陸産卵調査講習会を開催 2022/06/11 徳島
 豊島株式会社オーガビッツ感謝の会に出席 2022/08/29 オンライン

4-3 その他

(1) 広報・メディア協力等（抜粋）

紀伊民報 「アカウミガメふ化、記録的な少なさ みなべの千里の浜」 2021/10/26 掲載 取材協力
 高知新聞 「産卵のウミガメ照明で迷走」 2022/8/23 掲載 取材協力
 朝日新聞 「ウミガメのいない水族館」 2022/09/01 掲載 取材協力
 朝日小学生新聞 「アカウミガメの赤ちゃん」 2022/9/21 掲載 取材協力
 中京テレビ「キャッチ！」 2022/09/28 放送 取材協力

(2) 情報の発信・印刷物の発行等

●機関誌「マリンタートル」の発行

日本ウミガメ協会の活動を広く周知するために、機関誌「マリンタートル」第32号（1/1）と33号（7/1）を発行した。



●ウミガメ速報の配信 計7回

ウミガメに関わる個人・団体間での連携と情報の即応性を高めるために、電子メール・ファックスなどを利用し、ウミガメの産卵情報を中心とした情報を不定期に配信した。

●「うみがめニュースレター」の発行支援

うみがめニュースレター編集委員会（委員長：石原孝、編集委員：平間茂知・河津勲・亀田和成・岡本慶、顧問：亀崎直樹）が発行している情報誌「うみがめニュースレター」の発行経費（印刷・発送）を全額支援した。
 事業年度中に No.110 号の発行を支援した。



(3) インターンシップの受け入れ

大阪公立大学：2名、甲南女子大学：1名、神戸大学大学院：1名 ほか

(4) 専門学校講義担当

大阪 ECO 海洋動物専門学校にて、前期週 5 コマ、後期週 4 コマ（海洋生態・水族館就職対策）を担当
 大阪 ECO 海洋動物専門学校のウミガメ調査実習（2泊3日）2回を担当

（松沢・松宮・井上）

5 付属施設の活動

5-1 黒島研究所の活動

I. 調査・研究活動

●ウミガメ類の上陸産卵調査（主に黒島西の浜、西表島南岸のウブ浜とサザレ浜）

黒島西の浜におけるウミガメ類の産卵調査は、荒天時を除き、毎日実施した。アオウミガメの上陸 32 回そのうち産卵 22 回、タイマイ上陸 5 回そのうち産卵 4 回が確認された。初めて 8 年連続でアオウミガメの産卵が確認された。西表島の南岸のウブ浜とサザレ浜で 1 回の調査を実施した。その結果、アオウミガメ上陸 62 回そのうち産卵 53 回であった。

●ウミガメ類の標識放流調査

今年度はアオウミガメ 68 個体、タイマイ 6 個体を標識放流した。アオウミガメの内訳として海域で捕獲した 65 個体、産卵のために上陸した 1 個体、人工飼育 2 個体であった。タイマイは海域で捕獲した 3 頭、人工飼育 3 個体であった。

●助成・委託事業

委託事業：長崎大学及び民間企業から、それぞれ 1 件を委託した。

●論文・学会発表など

渡邊桜子、亀田和成、福永憲隆、柿添裕香、笹井隆秀、河津勲、志垣里紗、斉藤知己（2022）八重山諸島におけるアオウミガメ孵化幼体の一次性別の測定。第 113 回土佐生物学会。口頭発表

岩佐彩奈、村上義樹、高木楓、亀田和成、岡本実、平田晴之、鈴木一由（2022）アオウミガメ肝臓生検組織片を用いた住血吸虫類遺伝子の検出。第 165 回日本獣医学会学術集会。一般発表

河合萌、亀田和成、榎崎友子、木下千尋、福岡卓也、呂津、佐藤克文（2022）アオウミガメの餌の嗜好性と摂餌行動の地域間比較。令和 4 年度日本水産学会春季大会。口頭発表

Lyu L, Kawai M, Kameda K, Narazaki T, Sato K (2022) Is all transparent plastic debris the same to green turtles. 第 69 回日本生態学会。ポスター発表

亀田和成【環境セミナー】ウミガメから学ぶ生物多様性と持続可能な海洋経済活動とは。HAPPY EARTH FESTA 2022。一般公演

Okuyama J, Watabe A, Tatum S, Tanaka K, Shirai K, Murakami-Sugiura N, Arita M, Fujita K, Nishizawa H, Narazaki T, Yamashita Y, Kameda K (2022) Latitudinal cline in the foraging dichotomy of loggerhead sea turtles reveals the importance of East China Sea for priority conservation. Diversity and Distributions 28:1568-1581。論文

●本年度に実施、もしくは、次年度に予定しているプロジェクト

ウミガメ類の遺伝的研究（東北大と共同研究）

アオウミガメの摂餌生態及び海洋ゴミ誤飲（名城大学・東京大学と共同研究）

スナガニによるウミガメ卵の捕食（高知大学と共同研究）

アオウミガメの性別に関する研究（高知大学と共同研究）

II. 利用研究者・学生

2021年

学生：東京海洋大 3 名、高知大 4 名、三重大 1 名、日本大 1 名

2022年

研究者：長崎大 1 名、東京大 1 名、琉球大 2 名、北里大 1 名

学生：琉球大 2 名、海洋大 8 名、三重大 2 名、東京大 2 名、東京農業大 1 名、高知大 1 名、岡山理科大 1 名、日本大 1 名、鳥取環境大 1 名、

利用者合計 27 名（研究者 2 名・学生 25 名）



大学との共同研究：ウミガメ追跡調査



修学旅行での展示室解説



黒島で捕獲されたイタチザメ

Ⅲ. 団体の受け入れ

修学旅行：高校 21 校
旅行者からのツアー：23 回
その他 3 回

Ⅳ. 新聞掲載・テレビ出演等

NHK 所さん事件ですよ 取材協力
読売新聞「捕食者おらず、ウミガメのパラダイス」取材協力
琉球新報「アオウミガメが増加、希少な海草が絶滅の危機」取材協力
日本経済新聞「ウミガメ増加で漁業影響、保全の難しさ 沖縄・久米島」
取材協力
月刊やいま 2022 年 3 月号「ウミガメが教えてくれたこと一命の大切
さを学ぶ」

Ⅴ. その他

入館者数 8429 人（2021 年 10 月～2022 年 9 月）

- マリンタートラ発行
- 黒島ビジターセンター管理業務補助
- 琉球大・北里大の現地調査補助
- 2021 年 12 月石垣市立崎枝中学校へ出前授業



TVアニメ「白い砂のアクアトープ」21話に
でてくる水族館のモデルになりました



黒島にも大量の軽石が漂着

(若月・亀田・中西)

5-2 むろと廃校水族館および室戸基地の活動

I. 調査・研究活動

●ウミガメ類の通常調査

- (主に高岡・三津・椎名混獲個体の計測標識放流、標識個体の計測、上陸痕跡確認)
- ・大敷網 アカウミガメ 116 頭、アオウミガメ 96 頭、クロ1頭、タイマイ1頭。
 - ・漂着 アカウミガメ4頭、アオウミガメ5頭
 - ・上陸産卵 アカウミガメ10頭

II. 利用研究者・学生

2021年

10月 野根中1名 名城大1名

12月 KAP1名 東京海洋大2名 河原アイパットワールド1名 三重大1名

2022年

2月 東邦大1名 東海大1名 KAP2名

3月 大阪ECO1名 東京海洋大1名

4月 大阪ECO1名 KAP1名 東京海洋大1名 高知大1名

6月 室戸中3名

7月 大阪ECO1名 東京都立大島国際海洋高校1名 東京海洋大1名 KAP1名

8月 羽根中1名 東京海洋大3名 千葉科学大1名 日本自然環境専門学校1名

9月 名城大学1名 東京農業大学1名 福山大学2名

利用者合計 34名

III. 団体の受け入れ

●学校・保育園（遠足等）

2021年

10月 羽根小学校、土佐女子中学校、高知農業高校、安芸おひさま保育所、北川小学校、高知商業高校、芸西小学校、宿毛市立小筑紫中学校、須磨学園、高槻市立第十中学校、阿南市立中野島小学校、室戸中学校、大方地区4校連合小学校、元小学校、香南市立吉川小学校、四万十市立西土佐小学校、三郷町立三郷中学校、高知工業高校、玉野市立玉野備南高校、小津高校

11月 佐川町立尾川中学校、山田高校、琴平町立榎井小学校、吉良川小学校、高知県立盲学校、東洋町立甲浦小学校、宿毛市立宿毛小学校、東洋町立野根小学校、高知県立城山高校、土佐市立戸波中学校、室戸中学校、高知商業高校、高知県立山田特別支援学校、高知大付属小学校、安芸市立穴内小学校、高知南高校、徳島県立阿南支援学校日和佐分校、田野町立田野幼稚園、安田町立安田小学校、新居浜市立高津小学校

12月 高知大学、四万十町立十川中学校、高知県立大学、東京学芸大学付属国際中等教育学校

2022年

1月 高知県立嶺北高校 東京都立大島海洋国際高校

3月 吉良川小学校、高知小学校、安芸市立清水ヶ丘小学校、芸西村立芸西中学校、佐喜浜中学校、香美市立大柄中学校、安芸市立井ノ口小学校、四万十市立川口小学校

4月 四万十市立西土佐中学校、高知県立窪川高校、奈半利中学校、高知高校、近森病院付属看護学校

5月 高知県立中芸高校夜間部、大阪市立豊崎中学校、神戸市立長田中学校、四万十市立西土佐中学、京都市立八条中学校、南国市立御免野田小学校、海陽町率海部小学校

6月 窪川連合小学校、室戸中学校、四万十町大正・十川連合小学校、今治市立近見中学校、北川村立北川中学校、海陽町立海部小学校、新居浜市立中萩中学校、羽根小学校

7月 大洲市立肱川中学校、大洲市立東中学校、大洲市立平野中学校、大洲市立新谷中学校、大洲市立長浜中学校、大洲市立北中学校、大洲市立肱東中学校、滝川中学校、蒼開中学校

9月 米子市立福米中学校、尾道市立大学、新居浜市立高津小学校、高知北高校、羽根中学校

●議員等の視察受け入れ

2021年

11月 三重県熊野市議会、宿毛市議会

2022年

1月 高知市議会

5月 群馬県前橋市議会

7月 茨城県日立市議会

8月 福岡県北九州市議会

●ツアー

読売旅行、阪急交通社、クラブツーリズム、名鉄観光、JR四国、穴吹トラベル、とさでんトラベル、香北観光、など

IV. 新聞掲載・テレビ出演等

全国・ローカル問わず多数出演

高知新聞、読売新聞など多数掲載

高知新聞「閑人調」9月まで、朝日新聞「海はエライ」コラム連載（若月）

V. その他

●入館者数 87,015人（2021年10月1日～2022年9月30日）

●新型コロナウイルス感染症対策

入館時に検温と手指の消毒

混雑時は館内一方通行

換気のため一部の扉や窓を常時開放

職員のマスク着用

●ウミガメ調査体験

主に小・中学生を対象として実施

●イベント実施

2021年

10月 室戸市内の中高生に大敷下敷き贈呈式(室戸市役所)

2022年

1月 初日の出鑑賞

2月 サバらしい日々

8月 入館50万人記念セミナー

●Twitter 毎日更新

●講演活動

2021年

11月16日 第16回食品衛生指導員地区研修大会

2022年

5月31日 安芸郡市連合婦人会総会及び研修会

6月15日 馬路村キャリア教育講演会

7月30日 四国ブロック海外子女教育国際理解教育研究協議会高知県大会

(若月・千原・杉浦・鈴木・山口・平野)